

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 常葉大学大学院初等教育高度実践研究科
コラボ研修プログラム	事業名：学び続ける教員育成を目指す地域とのコラボ研修の可能性
支援事業報告書	研修等名：【NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修①】 「対話的な学び」を実現するための授業改善の視点 開催日時：令和4年8月18日 午後2時～4時30分 開催場所：常葉大学静岡草薙キャンパス 常葉大学センター 〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町 6-1 参加人数：一般参加教員(35)、教職大学院生(18)、大学教員(9)、その他(2) 計 64 名

内容：※全体発表の内容をテーブル起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

基調講演として、金沢学院大学教育学部長教授 多田 孝志 氏による「授業で育てる対話力」と題した講演を行った。長年にわたって対話論と国際理解教育を研究されている多田氏からは、新たな社会を生きるために必要な資質・能力や、現代の学びに欠けているものを押さえた上で、授業で子どもたちの対話力を育てるためには、何を大切にしたらよいかを明確に示していただいた。特に、ご自身が、小学校から大学院までの幅広い教師としての実践と、多くの国々での豊富な体験による具体例は、大変興味深く、深い思考をもたらす共創型対話の重要性を実際の授業イメージを広げながら理解することができた。講演中も、終始参加者の間に入り、気さくに質問をしたり、問いかけたりする等、和やかな雰囲気、参加者自身が対話の楽しさを存分に味わえ、それが後半のグループワークへのモチベーションにつながった。

グループワークは、小から高まで校種も様々で、それに大学教員と院生も加わった混合グループとしたので、立場の異なる参加者同士の意見や情報交換が大変活発だった。「授業だからこその対話とは」をテーマに、日頃の授業実践を紹介したり、基調講演を受けての具体的な授業改善の方策を協議したりした。院生と参加者代表による企画段階から、せっかくの機会なので率直な語り合いを大事にする、形式的な対話にならないようにファシリテーターが留意する、グループのまとめ方は自由とし発表はせずに記録を見て回る等の積極的な意見が出て、それに沿った内容とした。時間も 60 分近く取れ、飲み物サービスも相俟って和やかに対話が深められた。

最後のまとめでは、講師の多田氏より、指導講評としてグループワークの中で話題になっていなかった点も補足していただいた。「楽しむ能力」とは、知識・体験、スキル、人間力であるという結びのご示唆が強く心に残った。

成果：【事後アンケート結果】

- 1 本研修全体を通して、この研修は有意義でしたか：とても有意義（68.8%） 概ね有意義（25.0%）
 - 2 講演会の内容について：大変よかった（62.5%）、概ねよかった（31.3%）
 - 3 グループワークの内容について：大変よかった（56.3%）、概ねよかった（43.8%）
- <自由記述より>「対話について多くの学びを得られた」「対話をする際に気をつけるポイント等がわかりやすかった」「対話が日常的に行われるようになるための考え方や手立てを体験的に学べた」「学校種の異なる先生方との対話で視野が広がった」「年齢や所属を越えて対話することができ大きな刺激になった」

アイデアや工夫したこと：※3～5 つ程度の箇条書きしてください。

- ①「対話」というテーマに最も相応しい講師を招聘することで、学びが深められたこと。
- ②研修会の企画段階から院生代表と近隣校の若手教員とで話し合い、グループワークの内容を決めたこと。若手の瑞々しい発想により、ファシリテーターは、すべてストレートマスターが担ったり、対話の時間を確保するためにグループ発表を止め、バイキング形式 <記録の写真撮り放題> としたりした。
- ③本学の地元である清水七中校区小中一貫校（小2、中1）校長の理解と協力を得て、大学との地域連携の一貫として三校の夏季教員研修（任意参加）と本事業とをコラボしたこと。本事業が今後の連携強化への足がかりとなり、地域の教員の資質向上のために活用されることを期待したい。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

和やかな雰囲気の中で『楽しむ対話』の様子



講演中の様子①



講演中の様子②

